D
1011
1

逍遙文庫
文庫6
949
1

文庫6
949
1

曲亭馬琴著

和漢撮合 初編上帙

毎篇八冩合本

歌川國安繪画

漢楚賽擬選軍談 壹

漢楚實擬選軍談初編序

智者の自適くに流行の先達ろ庸才の自適ん人の迹ぢ所よ遊びて常ふ流行を追ふもの果敢ろ冊子物五部も十部も時好ふ悩へ行き悩ざれば行れぢ書林永壽堂おふそるよや有けん俄ぢ城ふ游ふ伯仲ぢ新著もがるこ予ま請ろさるれ唐山の稗史の西遊水滸の三書目の外ぢ又翻案ぢ多のやうく漢楚の鬩戦ぢ頼朝ぢ義仲両雄の確執ふ級易さうぞ這物の本を作ぢ抑清盛の秦始皇ぢ似る頼朝の漢高祖ふ似る頼政の陳渉ふ似る呂后ぢ似る時政義時の諸呂ふ似る牧子の呂須ふ似る義経の韓信ぢ似るうの前輩評論ある讀書者の話柄ふもあり口の玄ぢのこふおらぢーく義仲の項羽ふ似る覚明の范増ぢ似る兼光の鍾離昧ふ似る伊東祐親入道の田横ふ似る廣元ぢ音信ぶ蕭荷曹参ぢ相似る

毎篇八号合本四冊
上下二帙毎帙二冊

成敗異同あるとぐども亦その趣ろ多ふもあらぢ管頼朝の臣時政の堺ふ楔ぢ喰ふの如なの功成名遂く身退ろる張子房の如ぢの食其陸賈の如ぢの計ろ諸呂ぢ誅ーく漢室ぢ全くせー陣平周勃の如ぢの計ろ無のろ此一許ぢうろぢを撮合ーて一人ろ三人の事ぢ作ぢ壁ぶ下邳の圯橋の張良ふ牛若ろれぶ不可ろ如ー益漢楚の興亡ふ史記漢書の正史ふ本ぢを演義ゆも亦綴ろそを又譯せー通俗の漢楚軍談ぢあるを婦幼ふ易ふ欲せぢ讀むとぐども解ー易らぬ異邦の軍記なまぢろ大江南の裸虫江北ふ栽られく扣とろるものふ便旨ろ風土の妙ぐまぢ漢楚演義ぢ一書もぢ予ぶ架上ふ措とれふ変ぢく本邦の軍記とろるもの又旨ろ風土ぢ作者のる津間とまろ祝ぶ實ぢ時好ふ推當たる作者のる津

文政十二己丑年春正月吉旦新版

曲亭馬琴識

擬泰始皇
平相国
入道清盛

草も木もるびけば
そこあかな
横笛
窓の秋風

擬秦丞相 李斯
平家執権
阿波民部大夫
成良

大汝よ
仕ふるく仇々
番匠笠ぶ

成らぬよ
恙れく
うちこわすぞ

妹尾太郎
兼安

草部
行綱

大納言
成親

神ふ祈く
うせめと
人をいの田ん
子の浄衣乃
色ふそゆれ渡

擬秦大将軍蒙恬　豊後左衛門尉頼弘

擬秦太子扶蘇　小松大臣重盛

擬秦趙高　秦木工頭長高

擬趙高之
婿閻楽　後藤兵衛守長

時めくを
きそ〻ろけ
あやう下
げよ傘張れ
ふるむ

擬秦二世胡亥　平大臣宗盛

擬楚覇王項羽九将軍 我仲

山城掾 木曽の朝日 粟津の陣より はるなく 涙く 落ち 雪 掛く

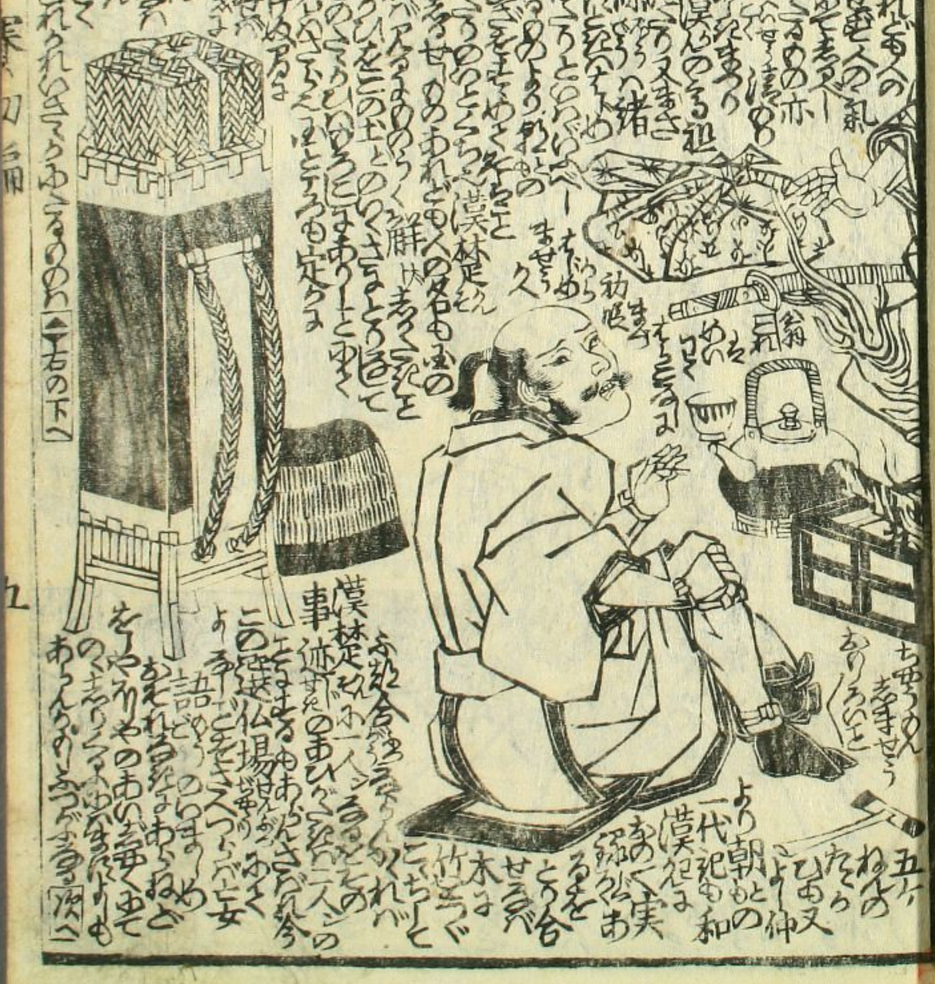
擬項羽后 虞氏

松殿山吹姫

擬漢高祖 右大将 頼朝

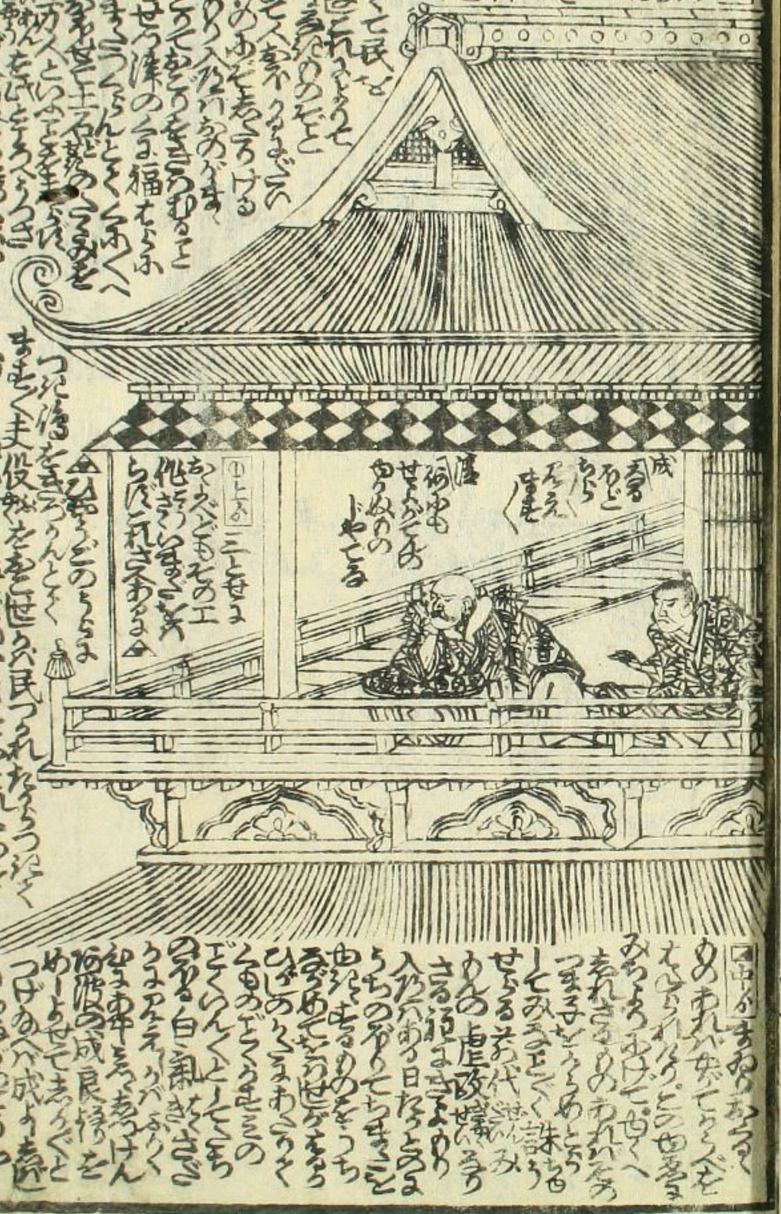
擬高祖之 呂后 平政子

女房のつく
ひざをそろえて
漢楚の世の
漢楚軍談 初編 四

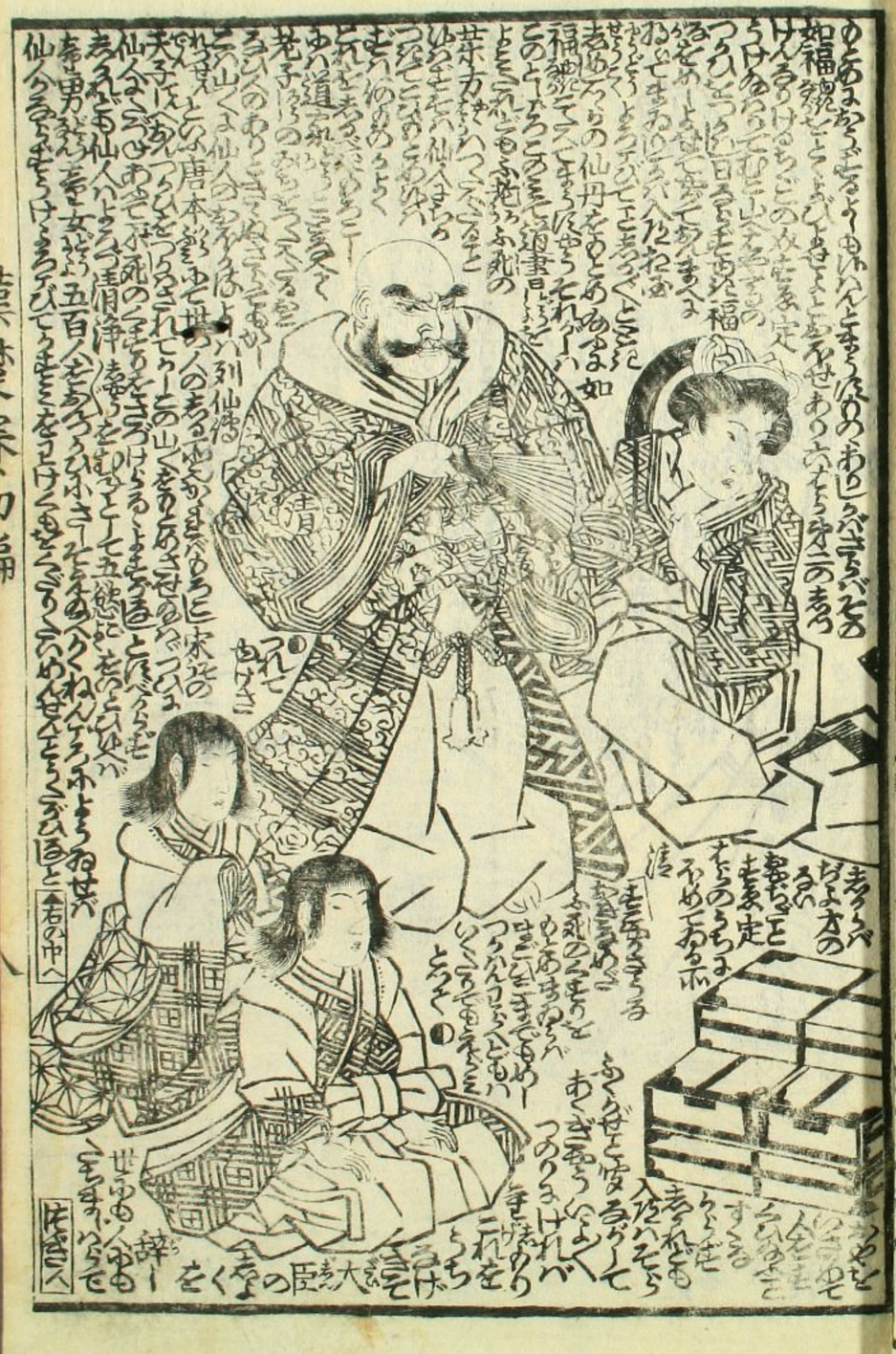


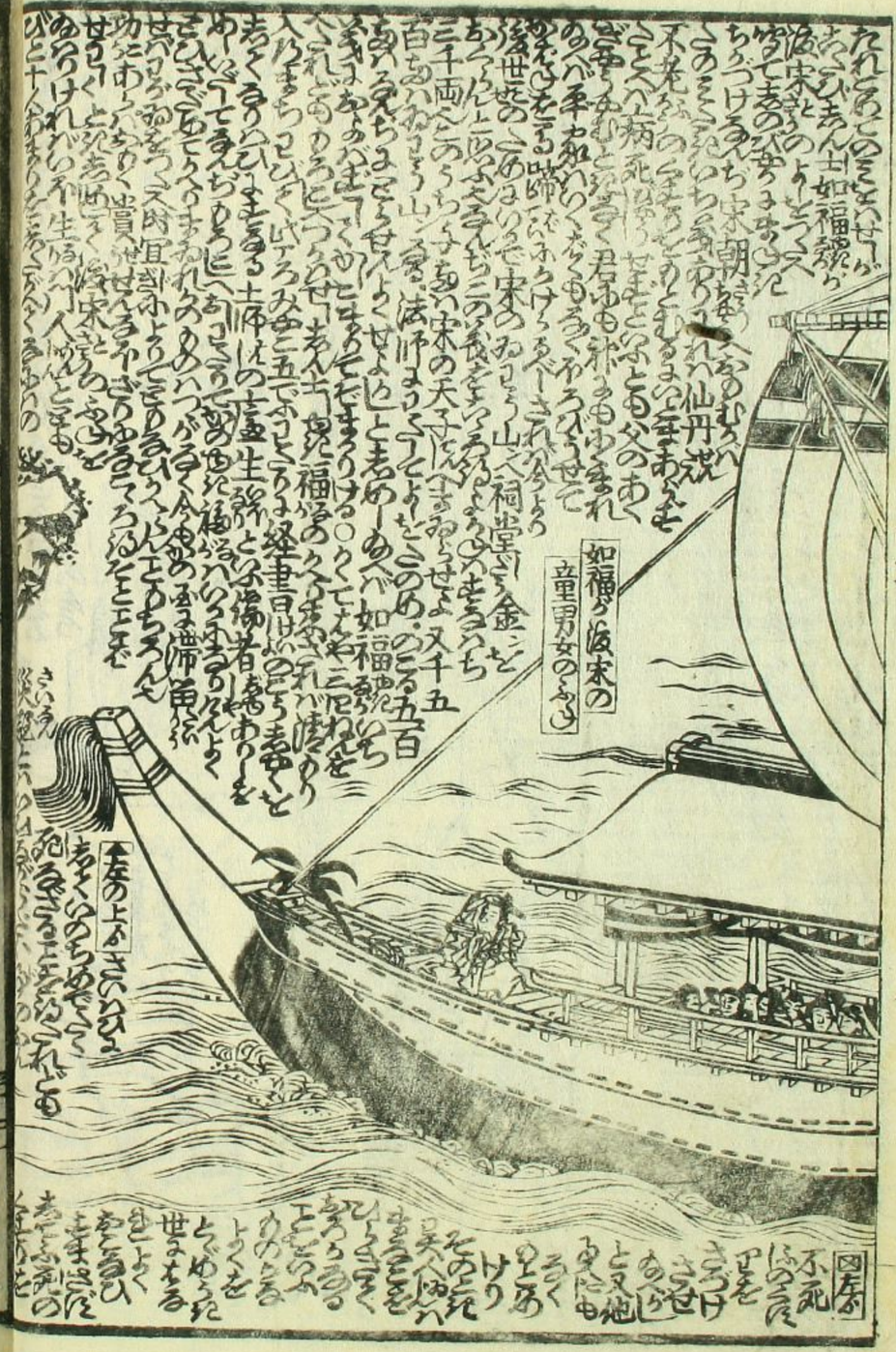
漢楚軍談 初編 五

清



福


福


如福ノ海ヨリ渡来の童男女のすがた
左の上の方さいわひよろこびあふぐ
図左の下へ
不死の薬

図右の下へ
仙人
図右の下へ

季

清

漢楚實擬選軍談初編 曲亭馬琴作 歌川國安画 袋入合本上下各二冊

その冊子の唐山漢楚の闘戦を頼朝義仲両雄の確執に擬合ーくいとなりろ〳〵綴りうる抑唐山の舊事人久をのでいわ生るをもらめとうせ且そのちんるれ冊子をえらまでひとともりこさをひもみつるでせうろ谷のくちげはた左るあるをかいうせでみるのいろうぶるのれいでもひとあるまくいしせかうぶるのれいでもひとあるまくいしせかうぶるのれいでもひとあるまくいしせか

曲亭馬琴著

和漢撮合 初編上帙

毎篇八冊合本

歌川國安繪画

巻之壹 擬選軍談 貳

漢楚實擬選軍談初編第二

江戸ぎらう町 二丁目 むらやち八 彩画

馬琴 著

國安 画

鐵槌打平 蒼海九郎公成が勇力 黎蒼海の任俠

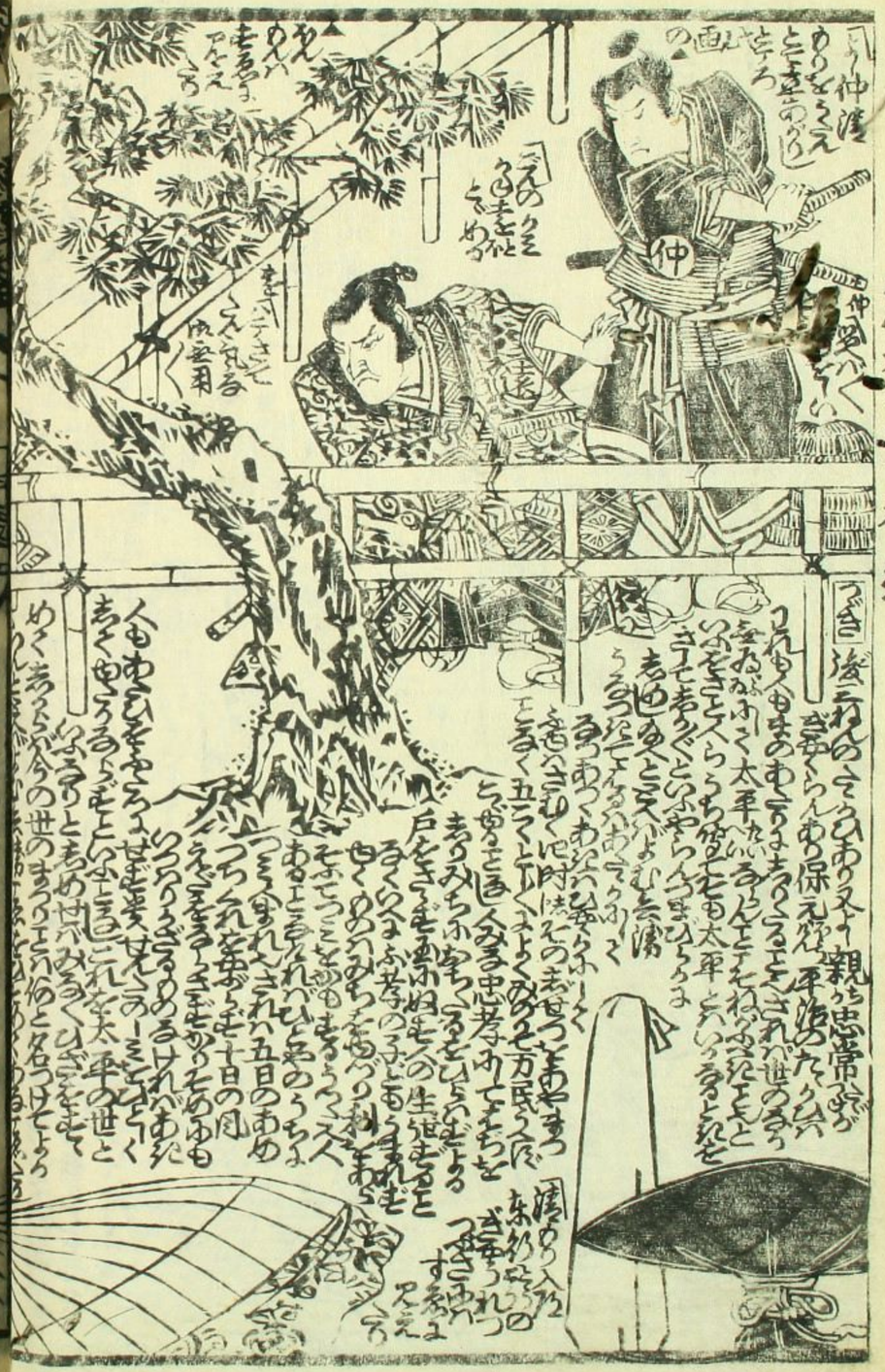
薩埵山顛の敗績 千眼千手の捕兵の箭頭を辛く逃れ

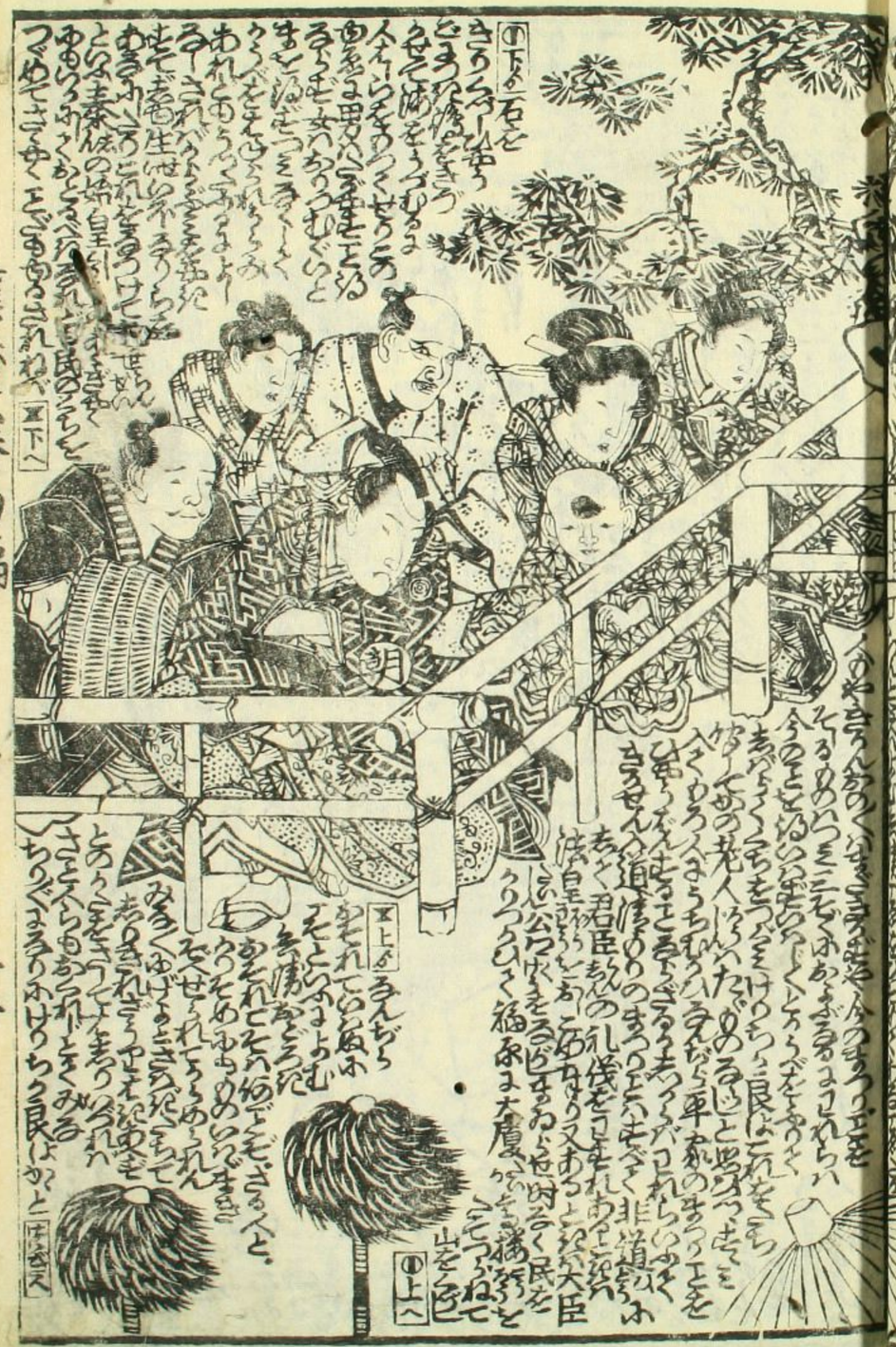
信濃の信濃ろる長頼の家に躲居 齋宮次官親良の仗ごろ気韓人張良が復讐

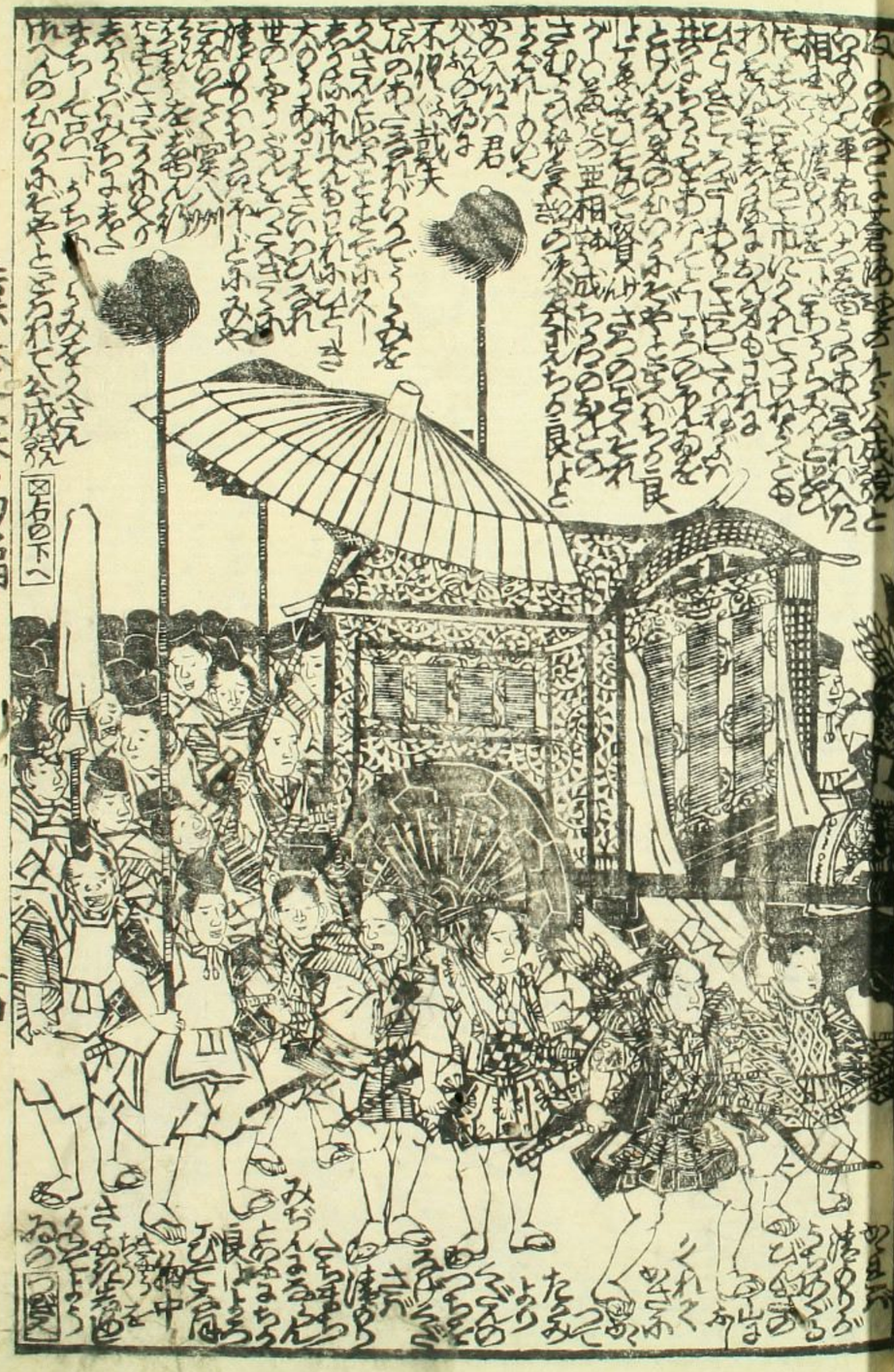
橋下貴腰 鬼一法眼光行の識量 黄石公が明察

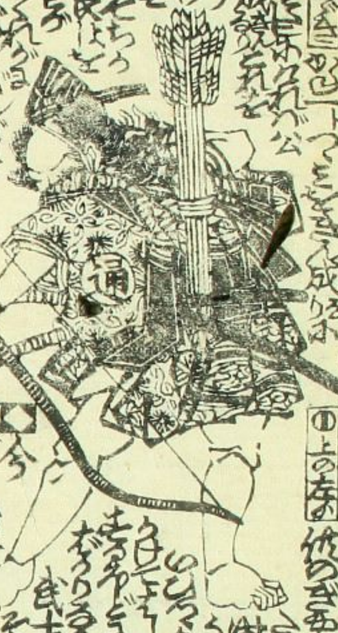
河添柿の約束 六韜三畧伝授の秘決を受く

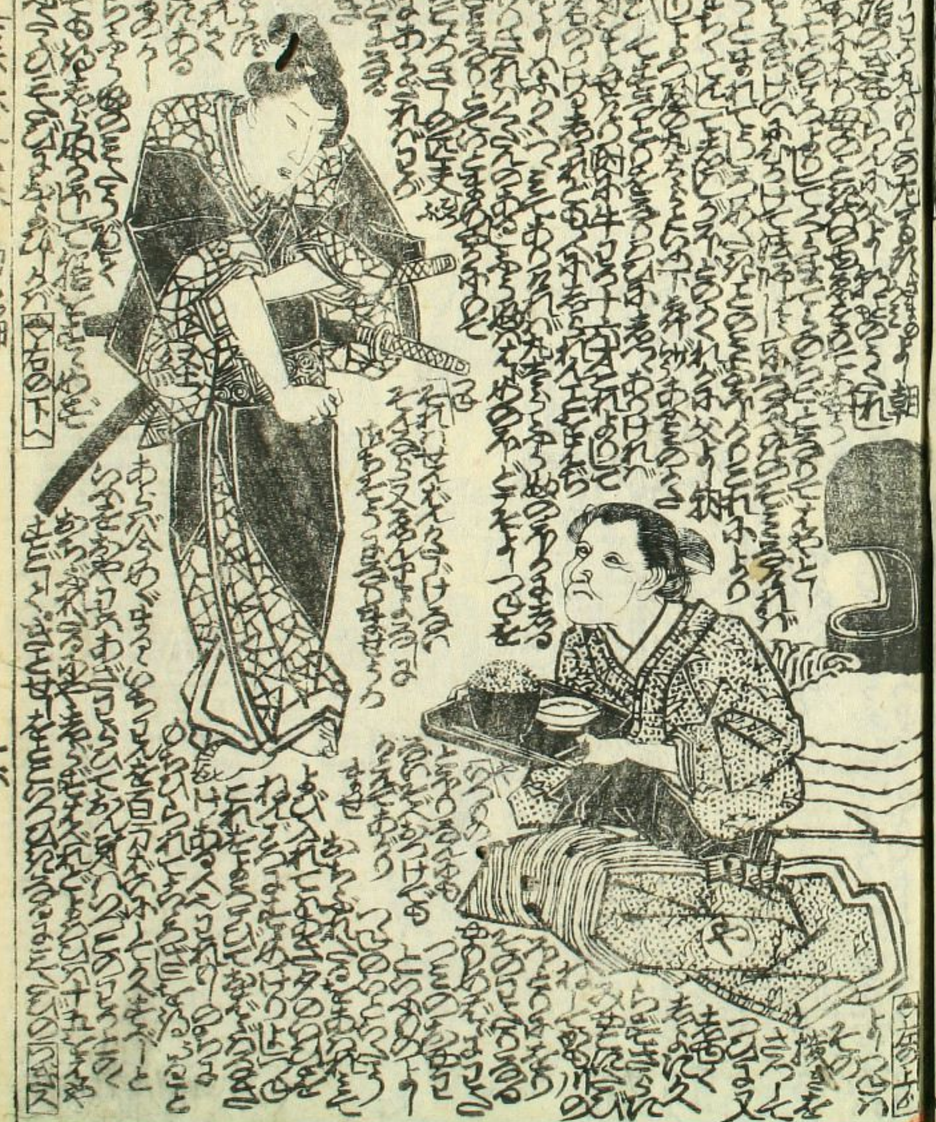
陸奥ろる平泉の源第九郎義経の兵法 仗ごろ亀渓の張子房が学問

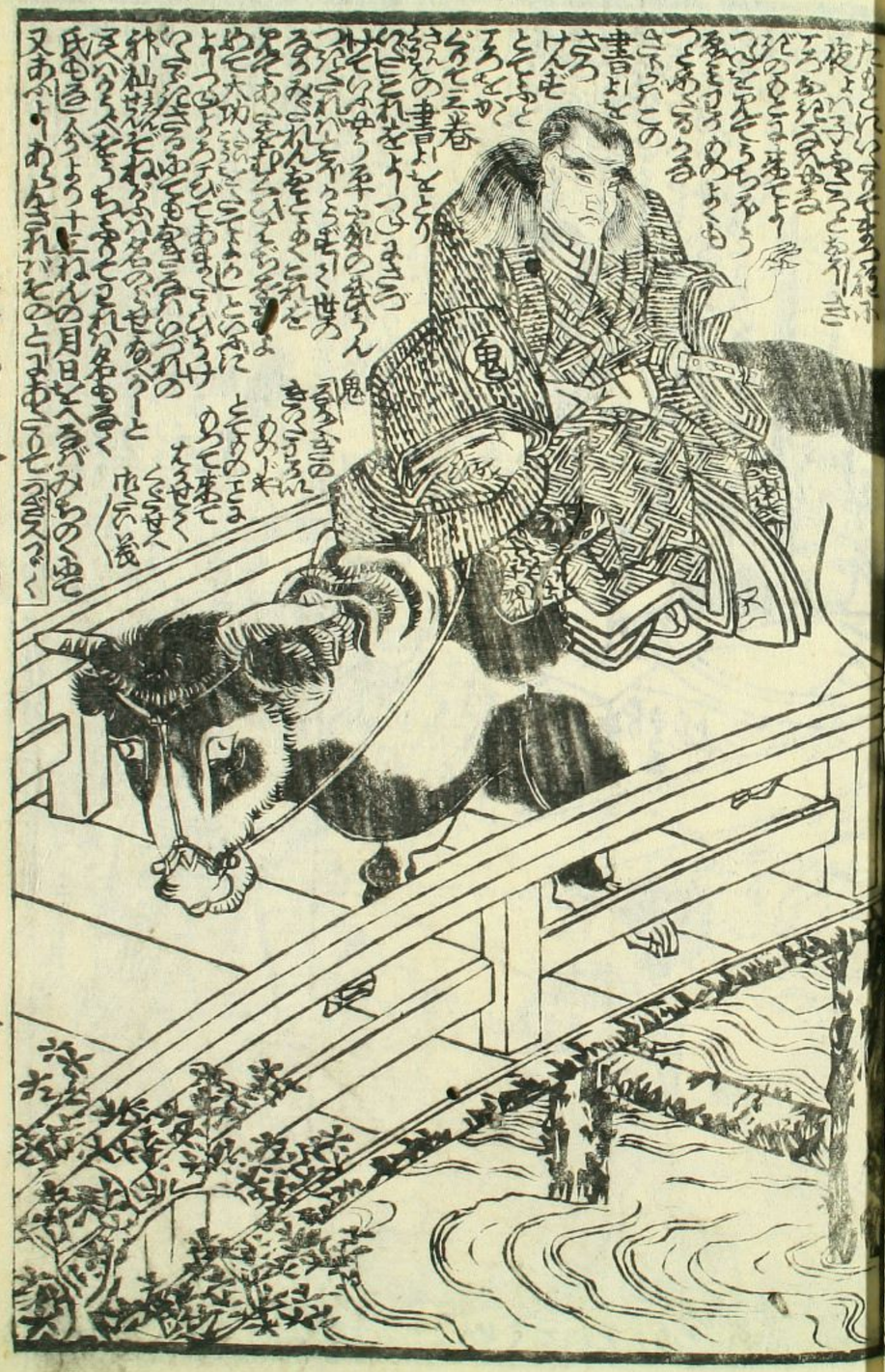

仲


月








鬼

らうだ。おそろしうれしくて日夜ゆもまうさうべき小司徒ども
医師ども医学あんさつ
あるべきのうらなひ
ちくらくれとちうろくめのもの
水よりをつうらしとわ
ねくうへとうめけひの水をあ
どうろ偶もゆるさうとうまさ
いつもごうくやをうろうとと
百日ろうまあとと
二男うえ宗盛ひとうけん
民ろの来成り
ひとうらくまひ
ひとうらくまひ
ひとうらくまひ

天のわこうとそれぐらうそのこぶわそうくとのかとくめぐらうのふくとのまわそうのひぎをゆくいまうとのかれうぶ
脇下がんようまれのしをうくみそあ可とむまりらぶ
ふこうぶまをまのおまりまでうねうくぶのまりのの
入れうえ子ねくうのこうくぶふうそうのまのれ
いまうとの世とうそようれ遠げんうんねうかうべー
うみところをけこのとそそくうまねうせひ
宗のりまうくうえそくしるとあうせひ
おぶまうくうもりくもりそうひてとと
う日ひけうおかそもるるがいとうとみうん
をくいうをうのれとうまよくうきまくめあれう
むところるうるう湯寺長のうと提使あうとと
うま脇のとそくうう〇とまようのちまけ

家傳神女湯 一包代百銅
近年某将軍家の御病の妙薬
精小包代弐朱 小包代五下
茅舎蔵書 大包代弐分 中包代弐分五下
熊胆黒丸子 一包代五下
婦人子宝の妙薬 一包六十包代壱弁二銅
製薬本家 神田明神下 滝沢氏
弘所 元飯田町中坂下南側 すの向 瓦屋沢氏

國安画

○書林永壽堂新刻目録

前北齋為一先生画 自正月至四月 九冊 各冊 各冊 各

漢楚蟻擬選軍談 曲亭馬琴作 歌川國安画 袋入

稗史水滸傳 山東京山編譯 歌川國芳画圖 袋入

代夜待白女辻占 曲亭馬琴作 歌川國貞画 全六冊

正本製十一編 柳亭種彦作 五渡亭國貞画 袋入

繋馬七勇婦傳 改名爲永春水作 歌川國安画 第四篇六冊

家内安全集 十返舍一九作 春川英笑画

新作の林笑語 林屋正藏作 歌川豊國画

美艶仙女香 柳亭種彦校合 全六冊 林屋正藏作

江戸本問屋 永壽堂西村屋與八 馬喰町二丁目角

江戸元弘店小石川春日町大黒屋長右衛門

山繭養法秘傳抄 壯澤始芳大人著 全一冊 此書八山まゆ飼立法のことより糸をとりて織方まてこと細かにかきあらはしたる書なり

画本百千鳥 彩色摺 狂歌入 全二冊

新形染彩目 前北齋爲一老人画 狂歌入 全一冊 此書八前北齋老人の染物の模様を集めて其法を詳にしるしたる物にて有余ページ四時物好きの人にさまざまの趣向を教へたる助となん

活金剛傳 立川馬琴撰 初編より今文政十二編まで二十年の間に出板せしその数凡百部に及ぶ 歌川国安画 中本一冊

四十八手関取鏡 立川馬琴撰 角力の事八ま丸組の図絵甚せつ妙なり

御免せんざいこの妙薬 二貼百粉 あさましの病ひのやめられぬ疝気の元を補ひ二大ふさぎの血筋を通じ痰内板の張を和らげ其外諸病に効ある事神の如し 元弘店 西村屋與八

画本虫撰 彩色摺 狂歌入 全二冊

楊家に養ひ家業に疎くなりぬ一切又此本の板元 西村屋與八 外は

曲亭馬琴著

和漢撮合 初編下帙

毎篇八局合本

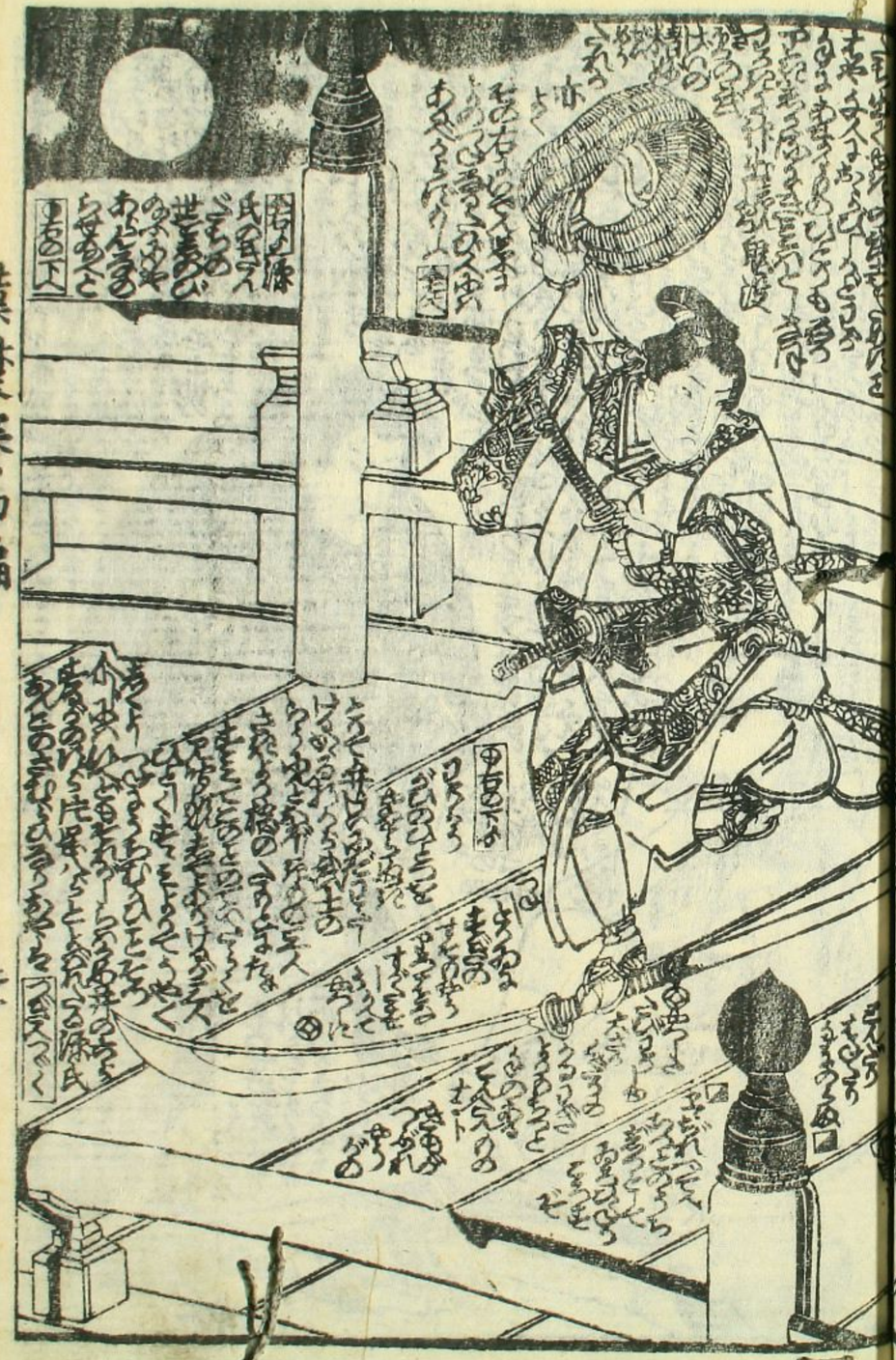
歌川國安繪画

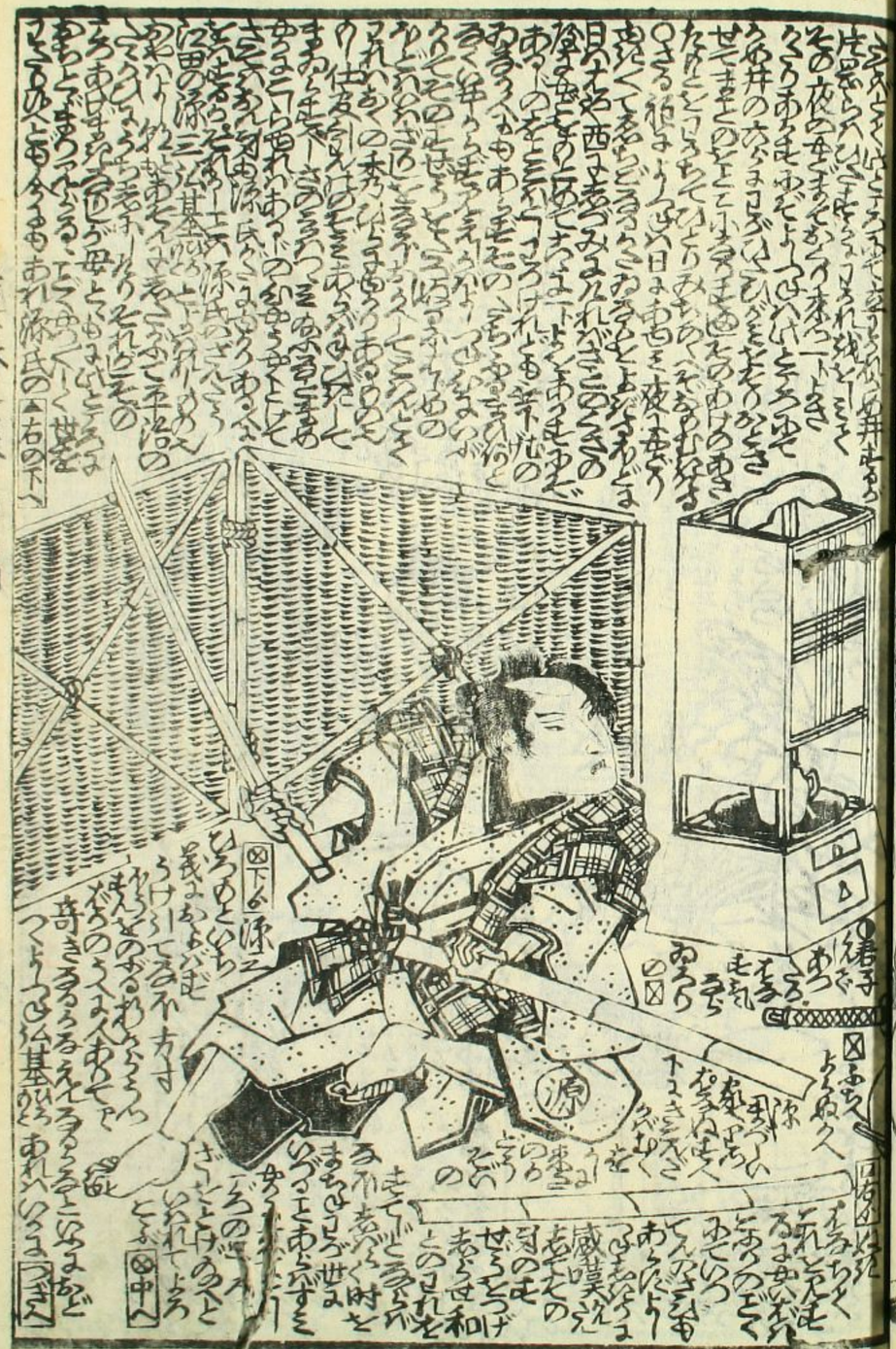
漢楚賽擬選軍談

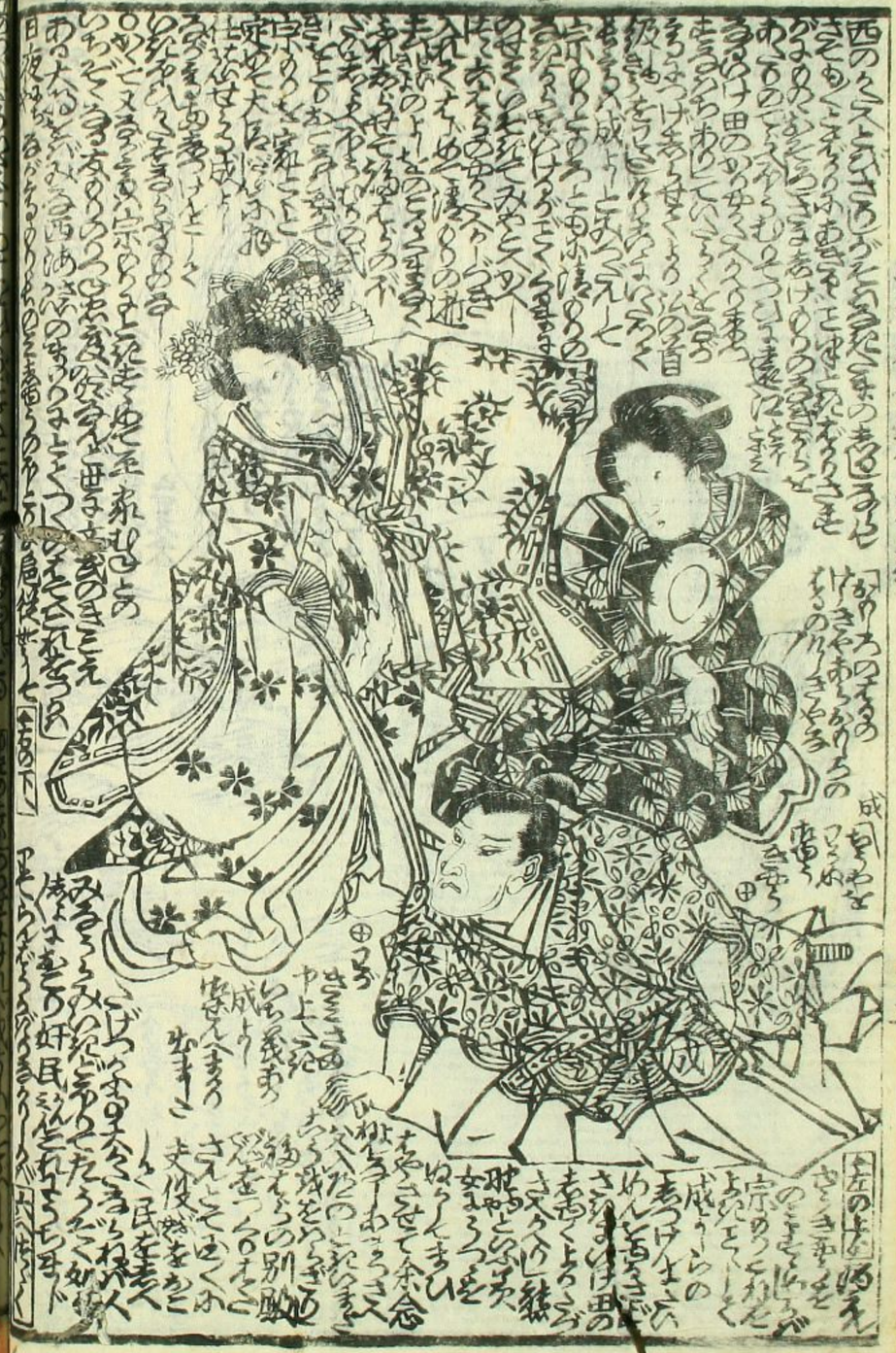
壹

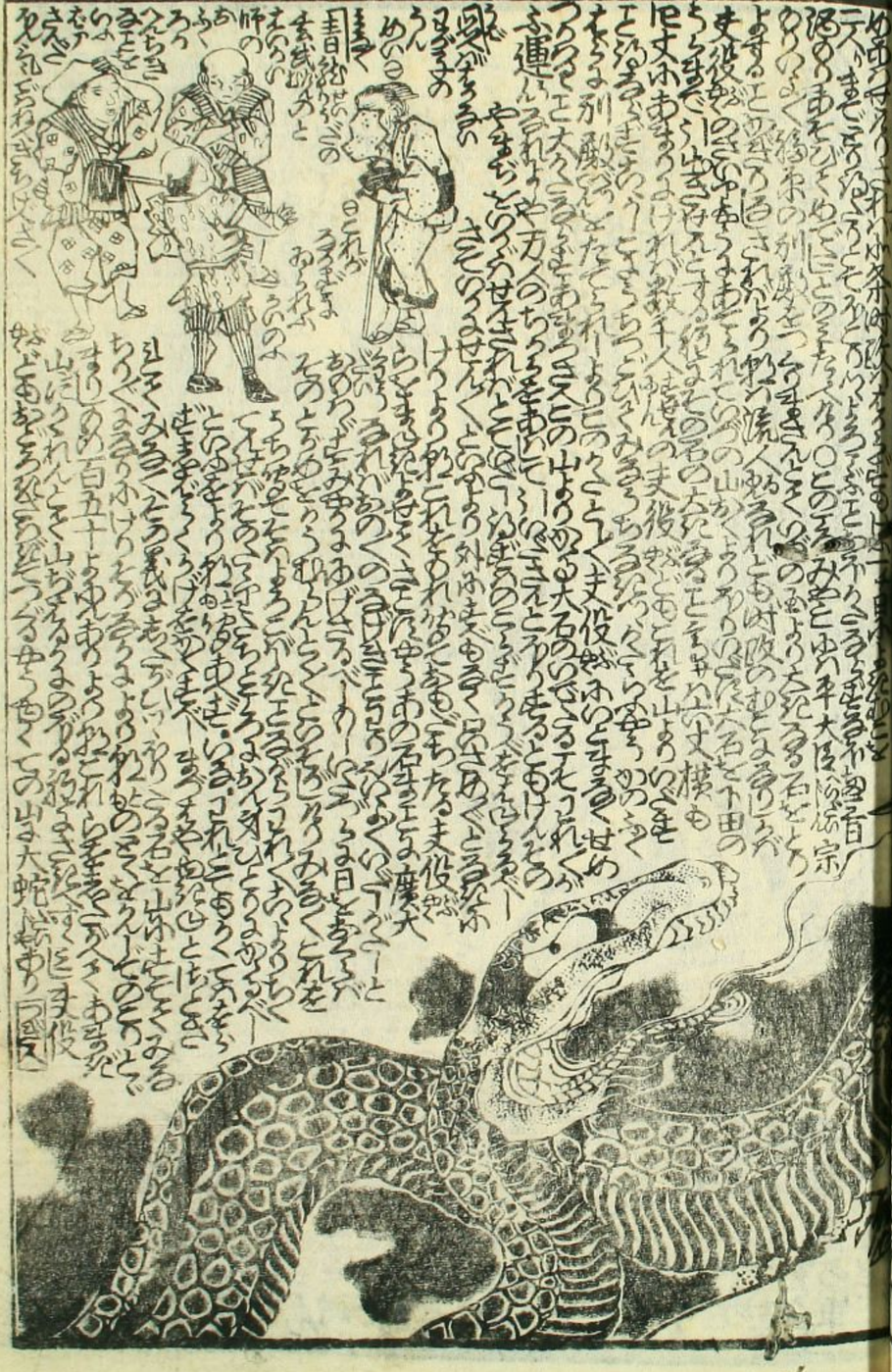
漢楚賽擬選軍談初編之三　上下二帙合本

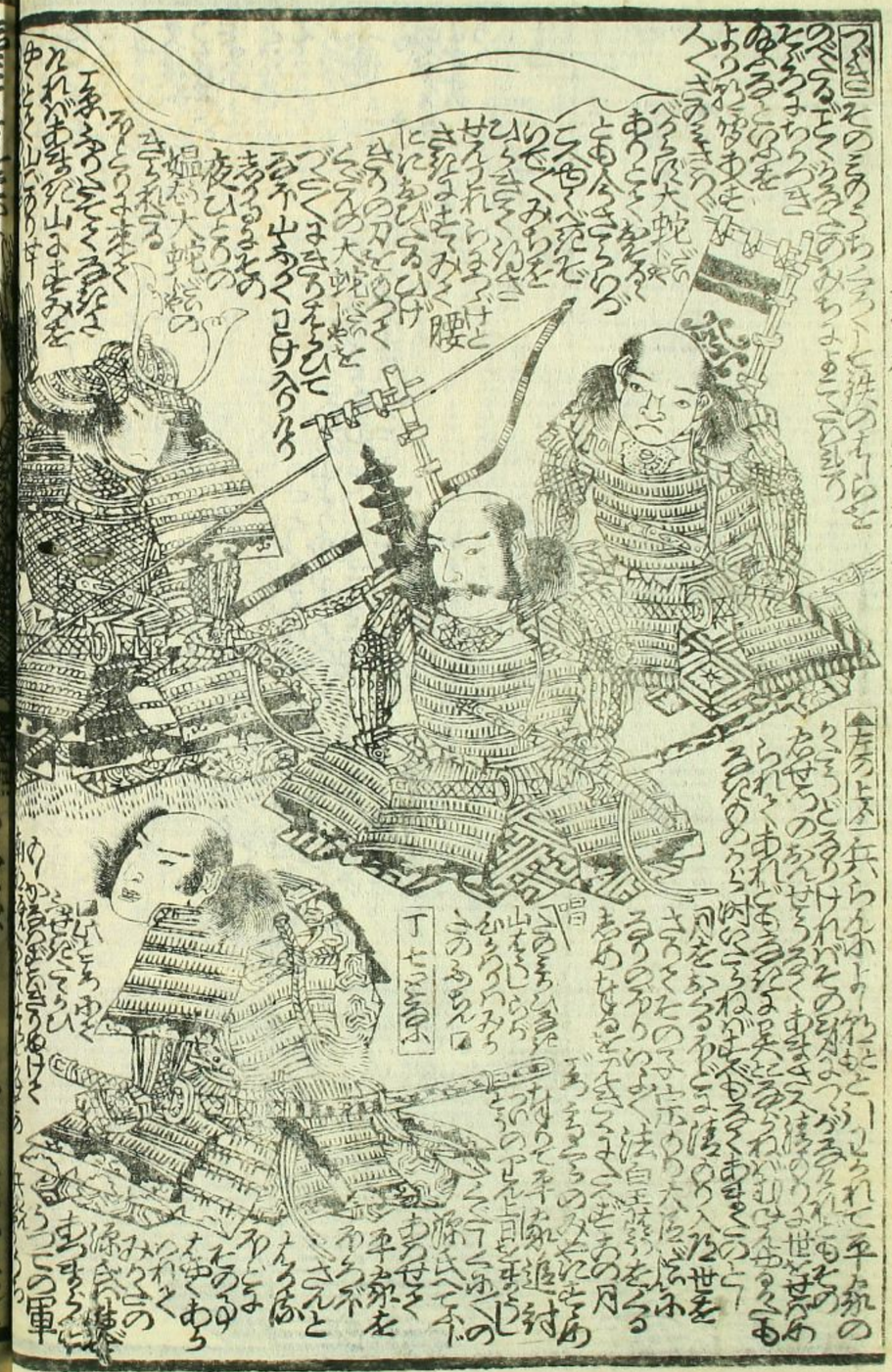
秦の徐福が擬の前進士如福の偽○儒士盧生が擬の洛下の博士盧生の偽○淮下の嫠母が擬の綿摘親輪の偽○浅山の趙三公が擬の生博物讀兵衛の偽○淮陰の悪棍某が擬の剣峯苻八の偽○黄石公が擬の鬼一法眼の偽○滑橋の張良が擬の牛若丸の偽○博望坡の張良が擬の春宮次官親良の偽○淮下市中の韓信が擬の源義経の偽○軍父の呂文が擬の北條時政の偽○婚席の呂婦が擬の静子の偽○婚席の呂須が擬の稲毛重成の偽○沛縣令が擬の八牧羊隆生の偽○蕭荷曹參が擬の廣元善信の偽

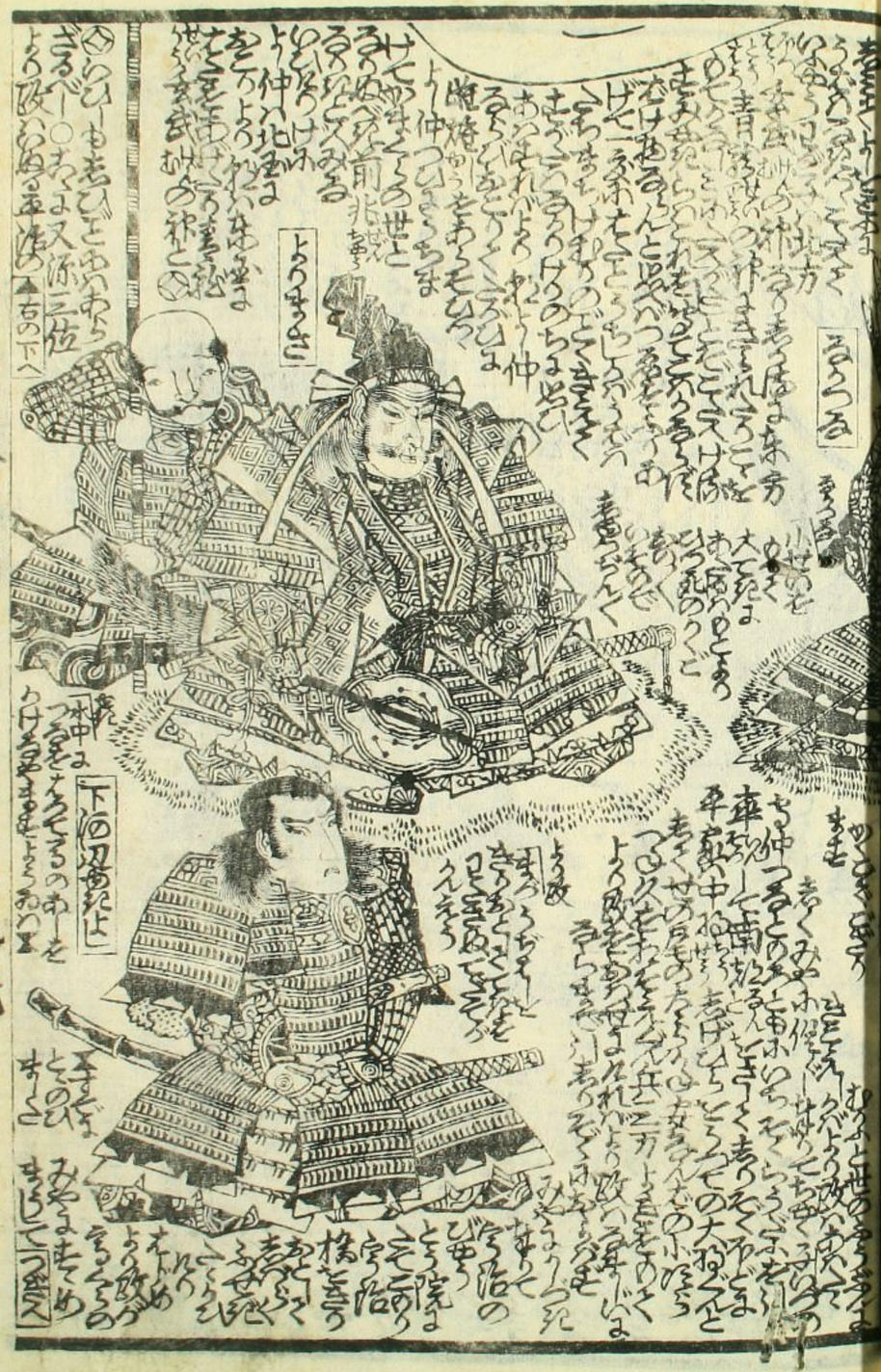












東都書林永壽堂新鐫目錄

神田眞笹翁作文
雅俗用文　中本　全一冊

深川文蝋堂書
今樣櫛籠雛形　前北齋爲画　全三冊

盆画獨稽古　月花永女著　全一冊

柳亭種彦隨筆
還魂紙料　古画古圖入二冊出板

御家流
手紙文言後集　蓮池堂先生書　中本一冊

山蘭養法秘傳抄　北澤始吉大人著　全一冊

茶の湯早指南　嶋眞貝齋先生著　小本全一冊

新形深彩目　前北齋為一老人畫　全一冊

前北齋為一先生畫　自正月至四月　全一冊

繪本庭訓往來　文蝟堂先生書　後編追出版　全二冊

繪本虫撰　喜多川歌麿畫　全二冊

むさし野歌舞妓物がたり　怪談三島おせん　柳亭種彦作　歌川國貞画　袋入二冊

正本製両面鏡　彩色摺　柳亭種彦作　歌川國貞画

江の島鎌倉大山往来雙六　前北齋為一画　柳亭種彦撰

國字水滸傳九編目より追々出板　柳亭種彦譯　歌川國芳画

正本製十二編　八冊　柳亭種彦作　歌川國貞画　袋入二冊

江戸書林地本問屋馬喰町二十目永壽堂西村屋與八

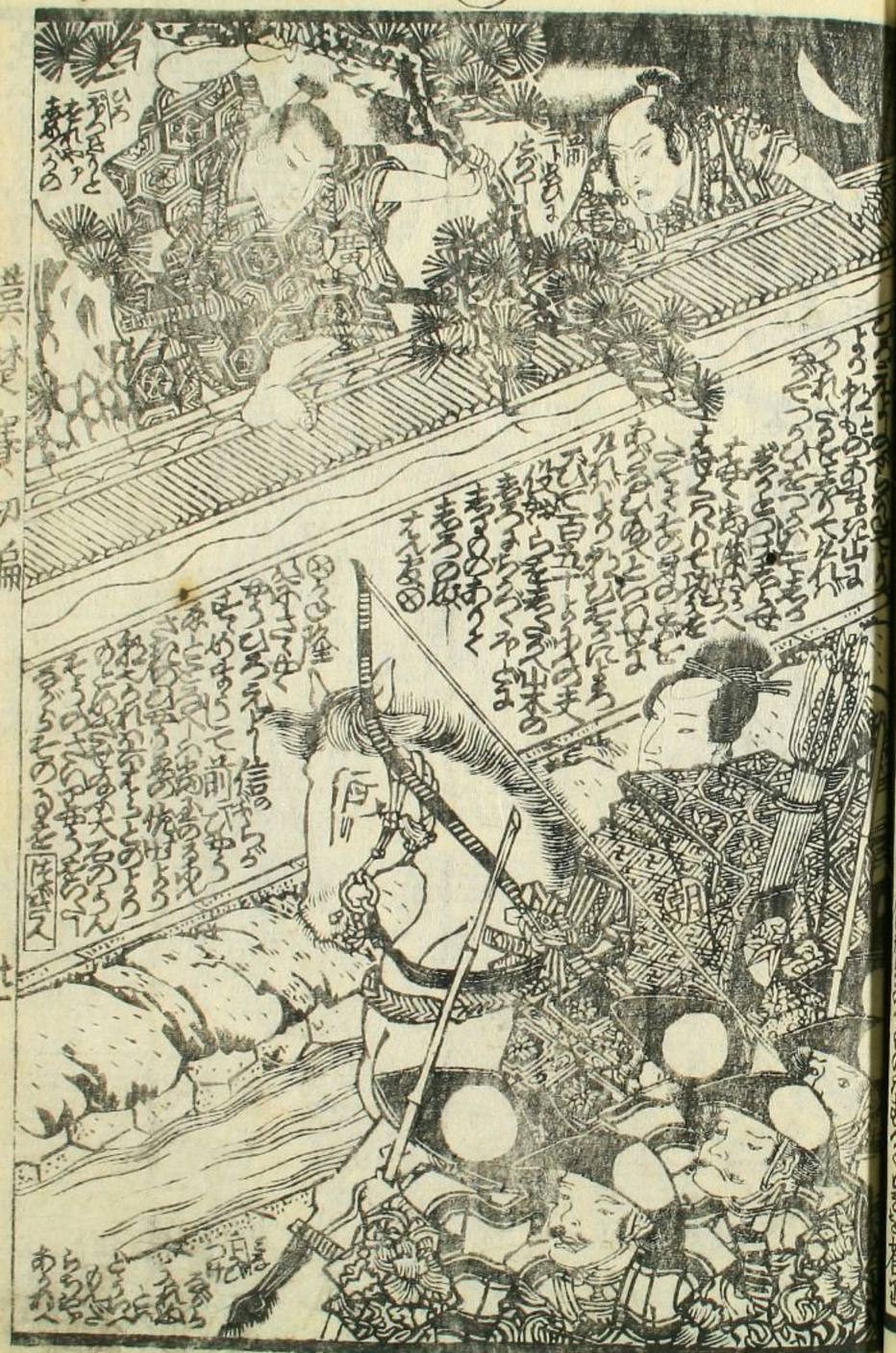
漢楚賽擬選軍談 貳

曲亭馬琴著

和漢撮合 初編下帙

每篇八冂合本

歌川國安繪画



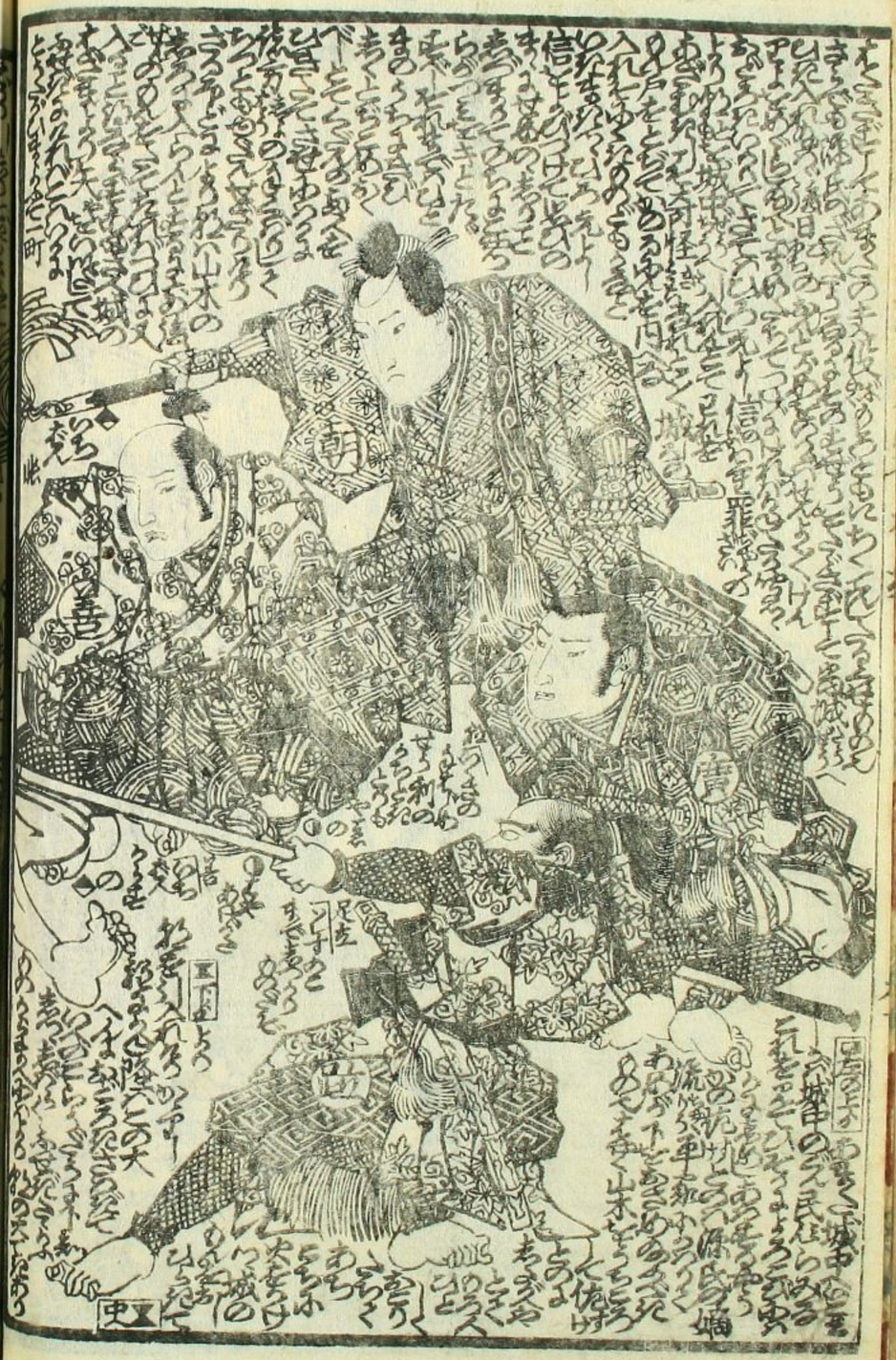
漢楚興初編 巻四

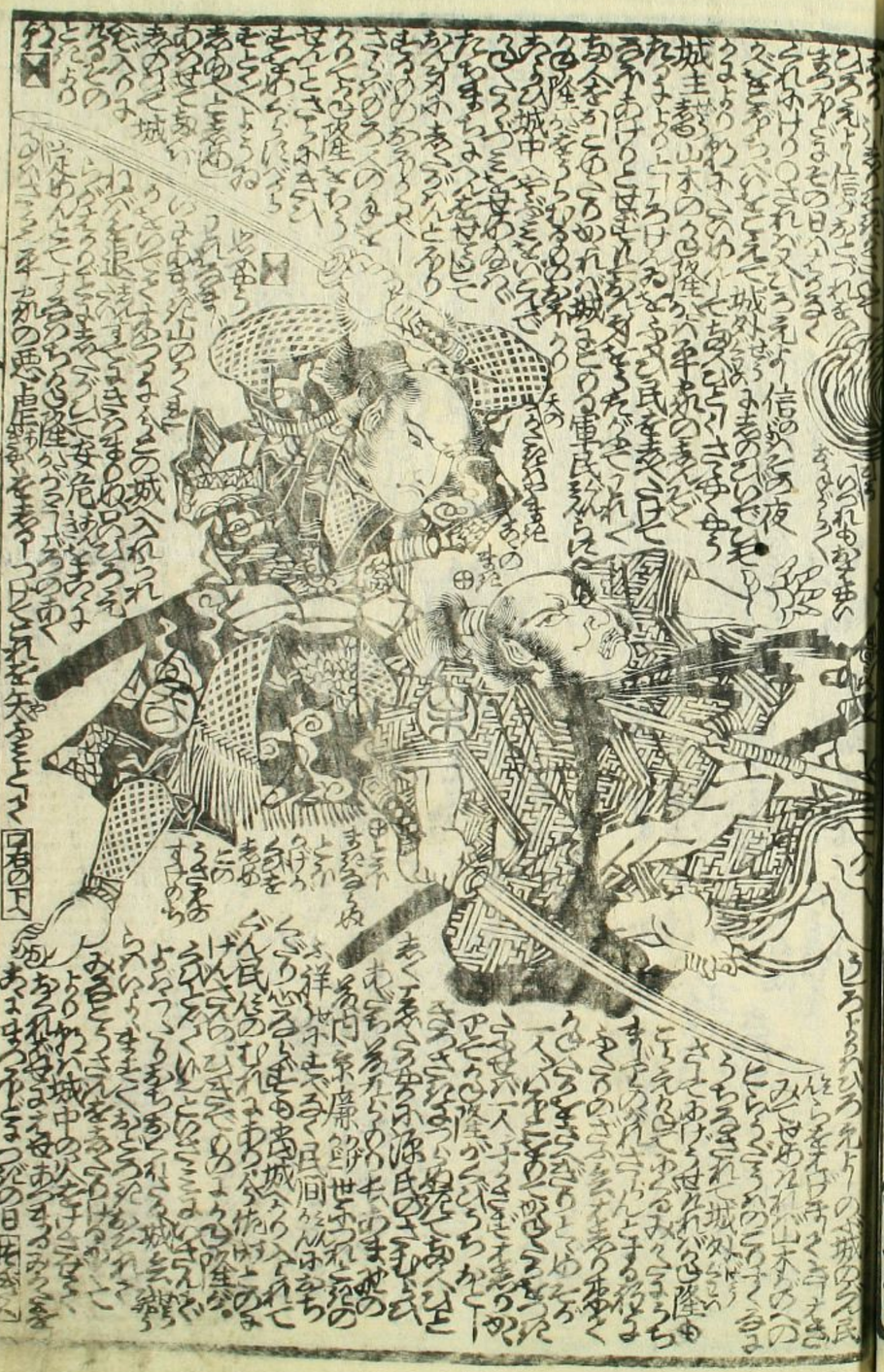
馬琴著 國安畫

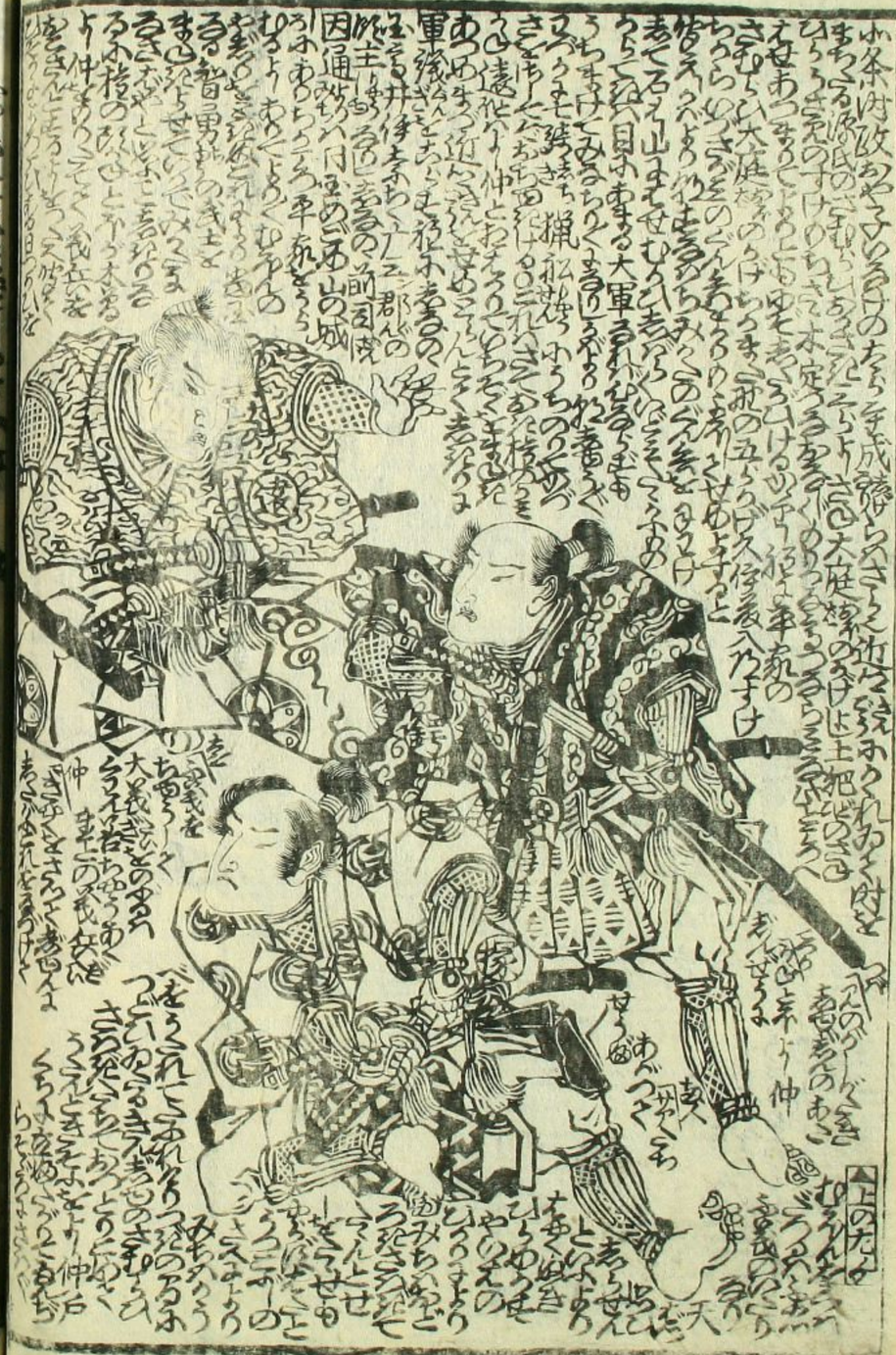
全八弓西與板

楚人陳渉ヲ擬ス源三位頼政ノ傳○楚ノ項梁ヲ擬ス權頭并遠ノ傳○會稽ノ守殷通ヲ擬ス信濃前司因通ノ傳○初出ノ季子布鍾離昧ヲ擬ス塚光盛鍔田忠政ノ傳○楚ノ子英相楚ノ公弁ヲ擬ス楯親忠根井行親ノ傳○六安ノ英布ヲ擬ス十郎行家ノ傳○虞公并ニ虞子期ヲ擬ス常盤目常成其子常四郎ノ傳

其ノ楚義帝ヲ擬ス信濃宮ノ御傳○項羽ノ諸傳○沛公劉邦ノ諸將ヲ擬ス樋口兼光今井兼平勇婦巴ノ傳○韓信ノ士卒ヲ擬ス亀井六郎ノ傳○秦ノ司馬欣董翳ヲ擬ス妹尾太郎兼通岩岡伊勢駿河弁慶江田源三弘基ホノ傳○秦ノ將章邯ヲ擬ス第一巻ホ難波小二郎経久ノ傳○楚ノ軍師范増ヲ擬ス大夫坊覚明ノ傳



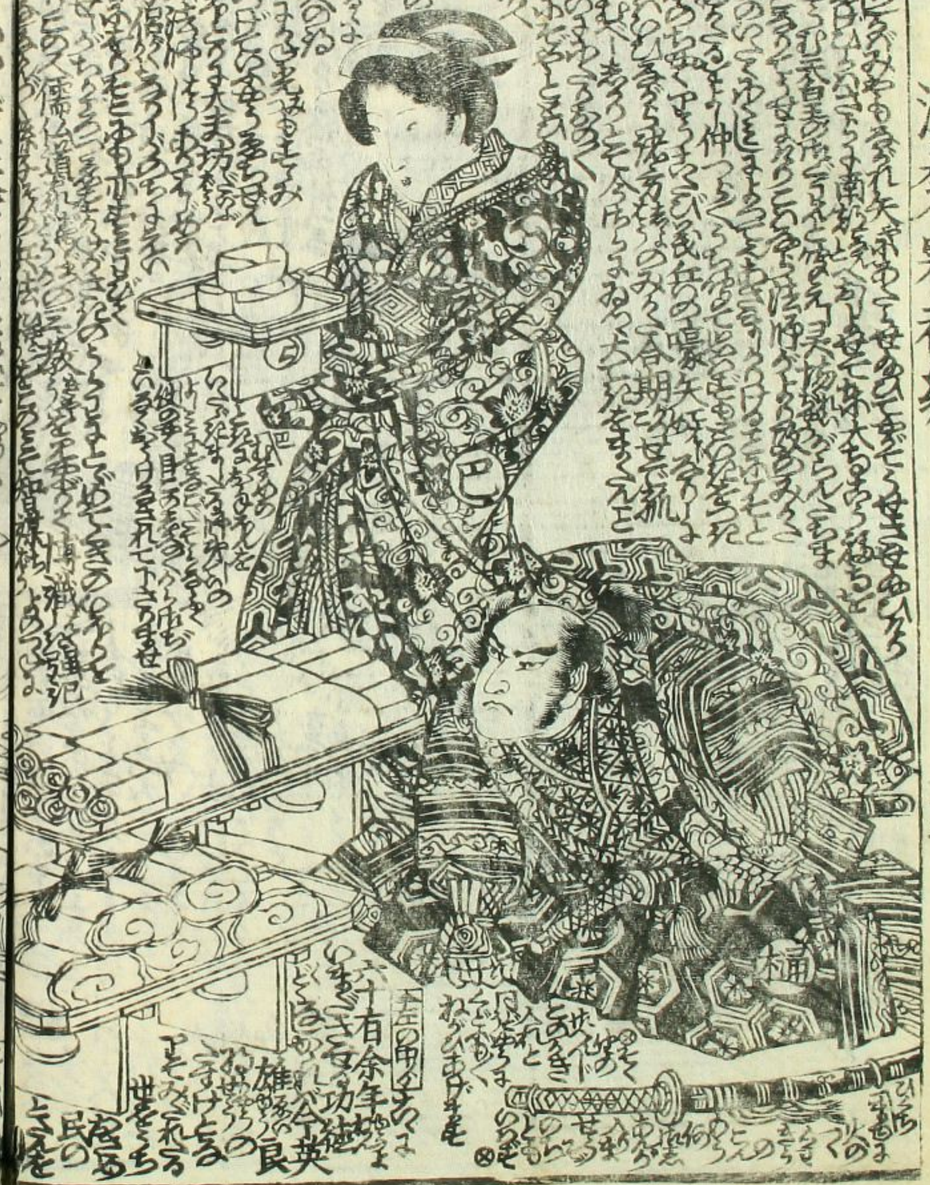


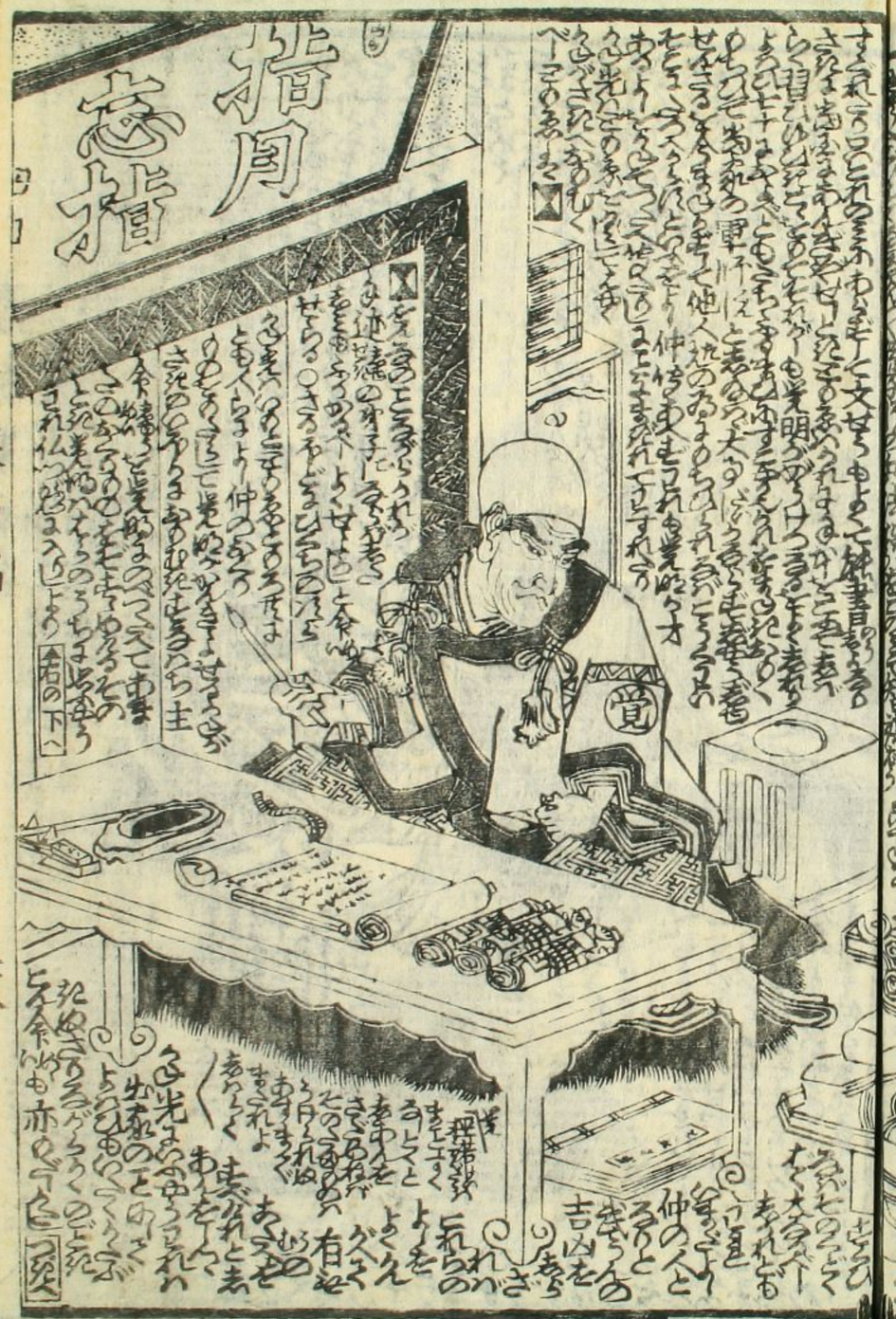


仲

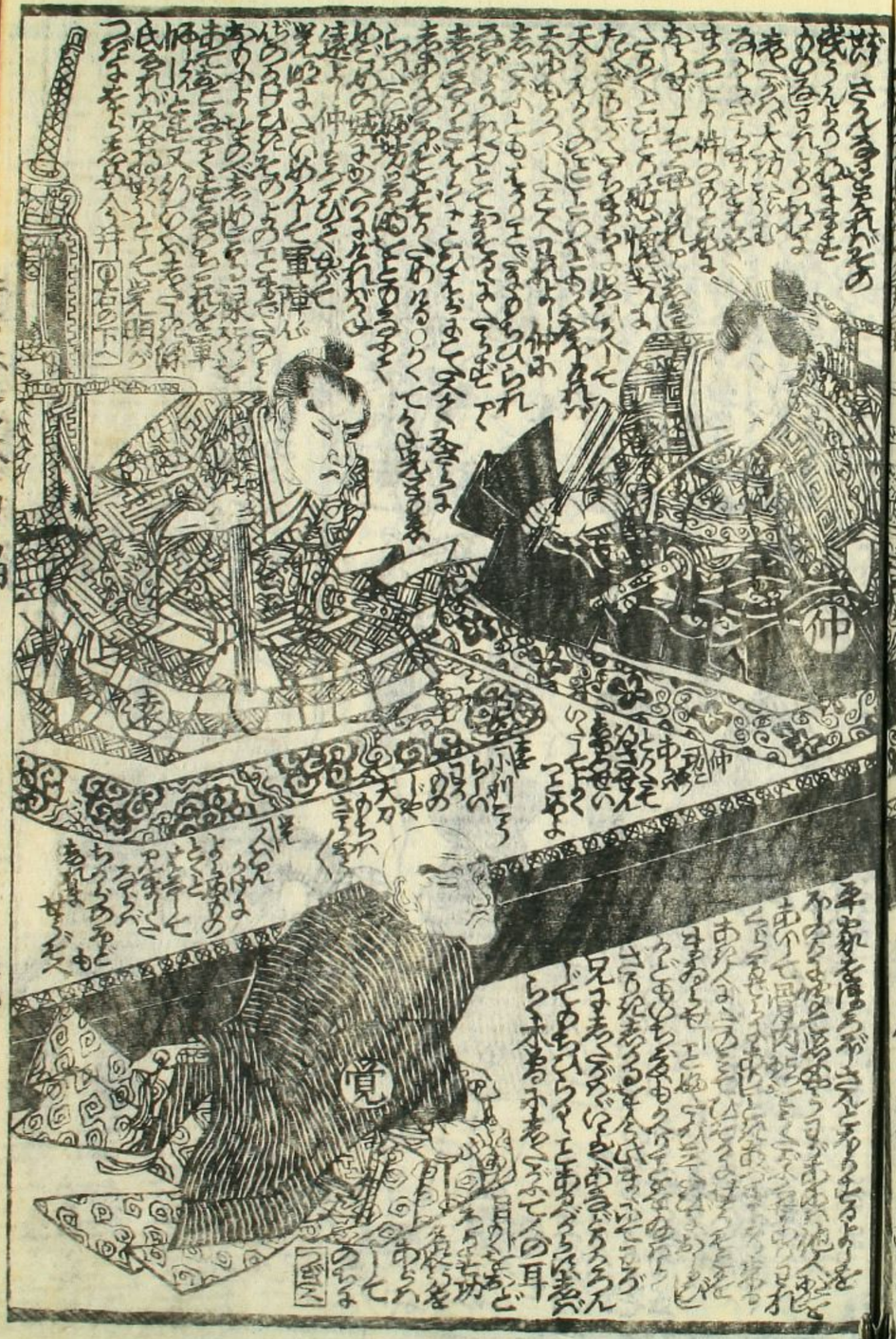
仲
山

仲
上人





行


仲
覚

猿蟹合戦

六々園主人著　小本全一冊

戯場顔微鏡

黙老漁隠著　歌川國貞画

彩色入全二冊

活金剛傳

立川焉馬撰　初編二編出来

四十八手関取鏡

右同撰　歌川国安画

中本全一冊

富嶽三十六景

前北齋為一翁画

藍摺一枚

一枚三景ヅヽ追々出板

水滸傳豪傑双六

歌川国芳画

奉書三枚継

大仕掛忠臣藏双六　歌川國安画　奉書二枚継

聲色早合點　五柳亭徳升作　中本全一冊

團扇地紙繪　その外東都名所繪數枚摺入

御免せんざいの部

蘭玉屑　備前岡山名産黒砂糖の類を細末にしたるもの

美艶仙女香　黒油美玄香　糸楊枝浪花一面店看板　本家坂本氏製

二朱ト弐八ツ　取次所　板元西村屋與八

漢楚實擬選軍談　初編上下峡　二編上下峡　三編上下峡　曲亭馬琴作

千代褚良著聞集　第一輯曲亭馬琴作　上峡四冊　下峡四冊　歌川國安画

戲場稿本當現建　初編四冊　立川馬馬作　二編四冊　香蝶樓國貞画

今昔虚之實録　全六冊　櫻川慈悲成作　歌川豊國画

歌・計漢之曙　全六冊　爲永春水作　柳川重信画

御誂智嶋通　初編三冊　後編三冊　笠亭仙果作　歌川國貞画

永壽堂西村屋與八　京橋南伝馬町二丁目南角

早稲田大学図書館
011488557191